

本郷通りは寺町

児玉 寛嗣

地下鉄・南北線の東大前駅から本郷通りを北に向かって歩くと、道路の両側に林立するマンションやビルの狭間の各所に寺院が見られ、かつては寺町だったことを偲ばせる。

江戸時代には最近、閉店した「かねやす」がある本郷三丁目までを江戸と呼んでいたようで「本郷も かねやすまでは 江戸のうち」という川柳が残っており、この辺りは江戸町奉行所の管轄外、所謂、郊外だった。江戸の町は度々、大火に見舞われたが、それを機会に寺院は郊外に移っていった。移転先のひとつがここだった。

ひときわ広大な寺院、吉祥寺の門の傍の案内板には次のように書かれている。

「長禄二年（1588）、大田道灌が江戸城築城の際、井戸の中から「吉祥」の金印が発見されたので、城内（現在の和田倉門内）に一字を設け「吉祥寺」と称したのがはじまりという。天正一九年（1591）に現在の水道橋一帯に移った。（中略）明暦三年（1657）の大火で類焼し、現在の地に七堂伽藍を建立して移転、大寺院となった。僧侶の養成機関として旃檀林（駒沢大学的前身）をもち、千人余名の学僧が学び、当時の幕府の昌平坂学問所と並び称された」

寺の境内の樹々を住处としているのか蟬の声がかまびすしい。近所のマンションの住民は都心にいながらに聞ける蟬の声に風情を感じるのか、ただやかましいと感じるだけなのか、どっちだろう。

このような由緒ある大寺院が都心、山の手線の内側に残っているのは驚きだ。俗人は広大な敷地を抱える寺院は固定資産税の支払いがさぞかし大変であろうと思うかもしれないが、寺院をはじめ宗教法人には固定資産税がかからないという特典がある。西洋諸国でも教会に対する課税免除は一般的に行われているようだ。昨今、旧統一教会の宗教法人解散が取りざたされているが、課税免除の特典がなくなることは彼らにとって死活問題である。

生家は寺であったが、特典のお陰で夏休みに広い境内で樹々とまっている蟬を追いかけてたり、キャッチボールが出来たことが懐かしく思い出される。